令和４年度 田川市立病院評価委員会　議事要録

日時　令和４年８月１日（月）１４時００分～１６時００分
場所　田川市立病院　講堂

１　出席者

⑴　委員

学識経験者	柴　田	洋三郎	福岡県立大学 学長
〃	岡　部	浩　司	田川医師会 会長
〃	是　永	大　輔	中津市病院・診療所事業　事業管理者
〃	尾　形	由起子	福岡県立大学看護学部 教授
〃	佐　藤	元　治	公認会計士
市民委員	上　村	晋　司	元田川地区消防署長

⑵　事務局

鴻江病院事業管理者、松隈病院長、小早川副院長、高橋副院長、吉田事務局長、石川看護部長、松元薬剤科長、山口医療支援センター副センター長、本永総務課長、有田医事課長、茅野経営企画課長補佐、加藤経営企画課係長、経営企画課担当

２　議事

⑴　令和３年度の決算見込み及び業務実績に関する評価について

①　決算見込み

（事務局より概要説明）

感染症重点医療機関として、前年度に引き続き感染症診療に注力し、感染症患者増加に伴う診療体制の確保のため、HCU に加え、新たに 2 階東病棟を休止した。

病棟休止による入院患者の減のほか、感染拡大時に診療制限（不急の手術や検査の延期など）を行ったことなどから医業収益は引き続き減少した。

医業収支は△747 百万円（前年度比＋238 百万円）となったものの、コロナ感染症に係る補助金の交付により、経常収支は 831 百万円（前年度比＋225 百万円）、病院事業収支は 775 百万円（前年度比＋223 百万円）の黒字決算となった。

（質問・意見等）

・入院収益は前年度より増加したが、急性期病棟の患者数が減少している。特に腎臓内科と外科の患者減少が顕著であるが理由は何か。

→　コロナ感染症により患者の受療行動が変化し、全体的に患者数が減っていること、また HCU、2 階東病棟の休止により、不急の手術の延期やマンパワーを要する大きな手術を他院へ紹介せざるを得なかったことなどが要因と考える。

・給与費対医業収益比が 65％とかなり高い。コロナ感染症に伴う臨時の人件費の発生などあると思うが、早急に 50％台に戻す方策を検討する必要があると考える。

→　医業収益の減少が大きく影響している。診療の制限と解除の繰り返しにより、収益増には繋がっていないが、病床稼働率 75％を目標に掲げ、救急外来の運用の見直し等の対策を復興プロジェクトなどで検討し取り組んでいる。

・医業外収益の他会計負担金・補助金が半減しているが、市の繰入金が減ったのか。
→　市からの繰入金のほか、コロナ補助金も含んでおり、前年度に比べ減っている。繰入金については原価計算を基に算定しており、田川市と協議のうえ、1億円程度が減額となった。

② 業務実績に関する評価

第3期中期事業計画に基づく令和3年度の業務実績に対して、市立病院の自己評価を基に、評価委員会として評価を実施。

○小項目評価

（目標指標の実績値や効果的な取組を行っているかなどの総合的な視点で評価）

小項目41項目のうち、次の3項目の評価を変更

・断らない医療の実現　【評価変更：１→２】

コロナ感染症の影響により救急車や紹介の実績は低くなったが、コロナ感染症の診療に注力する中、応需率の向上に取り組んだことを評価。

・循環器内科の再建　【評価変更：１→２】

医師1人体制の中、在籍医師ができる限り対応していること、また医師の増員に向けて、大学訪問など医師確保対策に取り組んでいることを評価。

・感染症医療　【評価変更：３→４】

重点医療機関としてコロナ診療に注力しながら、通常の感染症対策等にも十分取り組んでいることを評価。

○大項目評価

（小項目の評価結果から大項目評価の基礎点数を算出、判断基準に沿って評価）

大項目	評価		点数
1　田川市立病院の果たすべき役割	B	概ね計画どおりに進んでいる	2.7
2　三方よしの病院運営	B	概ね計画どおりに進んでいる	3.1
3　ウィズコロナの病院運営	B	概ね計画どおりに進んでいる	3.3
4　再編・ネットワーク化	C	やや遅れている	2.0

○全体評価

（大項目の評価結果および特に着目すべき成果5項目を考慮し、全体評価を実施）

令和３年度の評価結果 （全体評価）	「概ね計画どおりに進んでいる」

（主な意見・総括）

・今期は長年の累積欠損金が解消し財務状況は改善したが、医業収支はコロナ以前と比べ、かなり悪化している。施設改修や医療機器への投資、コスト削減、周囲の医療機関との連携による患者確保など、やるべきことは多いので、頑張っていただきたい。

・地方の自治体病院では、コロナ対応と救急対応を如何に両立させるかが重要である一方で、アフターコロナに向けて職員の意識改革も大切である。コロナ以前の患者数に如何に戻していくのかを常に考え頑張っていただきたい。

・コロナ対応と救急対応の両立は大変だと思う。経営側と現場側で意見の相違が出ることもあると思うが、「現場を守る」の姿勢で頑張っていただきたい。

・教育・啓蒙活動において様々な工夫を行っているが、高齢者の方はオンラインに馴染みがなく、対面開催を希望される方が多い。自治体と連携し、公民館でのZOOM 配信など、更なる工夫に努めていただきたい。

・田川地域は後期高齢者が多く在宅診療のニーズが高いため、急性期病院としての役割だけでなく、地域包括ケアや緩和ケアなど、地域包括ケアシステムの構築を進めるうえで、重要な病院と思う。コロナ禍で高齢者のフレイルが問題となっているため、自治体や医師会と協力して、「フレイル予防」の教育・啓蒙を進めていただきたい。

・インシデント・アクシデントのレポート提出や事例分析は十分に行われているようだが、医師からのレポート提出がかなり少ない。今後の課題としていただきたい。

⑵　第３期中期事業計画の改定について

（事務局より概要説明）

令和 4 年 6 月に第 3 期中期事業計画の再改定を行った。前回の改定でコロナ感染症の収束時期が見通せず未定とした収支計画の令和 4 年度の内容を明示するとともに、収支計画に連動する一部の目標値を見直したことを報告。

（質問・意見等）

特になし

⑶　その他

特になし